

2010.4.9

ワーキンググループ・プレゼンメモ

後藤和子

**1, 世界及びアジアのなかの日本**

- ・投資先としての日本の魅力がない？

- ・クリエイティブで才能ある人材を惹きつける政策の出遅れ

例えば、オランダでは、専門的で高所得の外国人は、収入の3分の1を所得から控除できる。それは、優秀な人材や企業に対するインセンティブとして行われている。また、資本参加免除等、外国資本の子会社を惹きつける税制も行っている。

- ・かかる現状の中での文化政策あることを認識する必要がある

アジアの他の国と比較して、文化の自律性が保たれているのは日本の強み

**2, 学校教育の中に何でも取り込む発想からの脱却を**

- ・相応しい場で本物に触れることの重要性

- ・大学生（留学生を含む）のなかでの、伝統芸能への関心は高いかもしれない

**3, 政策の考え方、あるいは検討すべき政策として****(1) 政策の考え方**

- ・インセンティブの設計（税制、法、競争的資金、顕彰等のあり方）

- ・民間で行っていることの障害を取り除く、あるいは支援する

- ・自治体の創造性を引き出す

**(2) 検討すべき政策**

例えば、

- クリエイティブ産業は非常に小さな規模の事業所であることが多い。また、フリーランスで仕事をしている人も多い。クリエイティブ産業を振興したいのであれば、そうした人たちがフリーランスでやっていける社会保障が必要。知的財産、契約に関する教育も必要である。

- 京都の町家を保存・再生するために大変苦勞している人たちもいる。文化財ではないが、そうした街の景観を構成する伝統的な建築物の保存・再生を促進する税制や融資について検討すべきである。

- 伝統工芸品については、経済産業省の伝統的産業振興と文化庁の文化財政策のしきりを取り払い、伝統工芸品を製造業としてではなく、クリエイティブ産業として振興すべきである。